



News Letter

奥富興産株式会社

「ごみは社会課題の鏡、リサイクルはわたしたちが豊かな生活を過ごすためのモノサシ。」

【コラム】スキーもできるごみ焼却場？

菅総理は所信表明演説で、「2050年までにカーボンニュートラルを目指す」と宣言しました。カーボンニュートラルとは、企業や家庭が排出する温室効果ガスを省エネルギー化によって削減するとともに、削減しきれない分を植林や森林保護といった「他の場所での吸収」によって正味でゼロにする取り組みのことです。地球温暖化を防ぐには低炭素社会の実現が欠かせません。

そのカーボンニュートラルで先を行く国がデンマークです。2050年には化石燃料からの完全な脱却を目指し、エネルギー供給の100%を再生可能エネルギーで賄うという高い目標を設定しました。首都コペンハーゲンには2025年までに世界初のカーボンニュートラル都市を目指しており、なんと山岳スポーツができる廃棄物発電所をつくってしまいました。「コペンヒル」というこの建物の屋根には草木が生い茂り、ハイキングができます。全長370mのスロープではスキーやスノーボードが、建物外壁ではクライミングができます。グレンデがある屋根の下には近郊に住む60万人分の家庭ごみが運び込まれる「ごみ処理場」があります。燃焼した熱エネルギーは周辺7万2千世帯分の暖房や3万世帯分の電力として活用されています。また、排出される窒素酸化物は99%カットと世界最高水準で、屋上でスキーをしても全く問題が無いそうです。焼却場から排出される空気は、市内の空気よりもきれいとのこと。



建設コストは日本円でおおよそ660億円かかり回収するには30年はかかるそうですが、関係者はごみ処理場こそ人が住む都市のそばにあるべきだと言います。「私達は市民を巻き込みたかったし、ごみは捨てて終わりじゃないことを示したかった。」（ごみ処理場広報担当 スーン・シャイビーさん）実際、ごみ処理場のすぐ近くにはおしゃれな集合住宅が立ち並び、ヨットハーバーもあるロケーションで、まさに市民に身近な『ごみ処理場』として共存しています。ごみは社会課題の鏡と言えますが、ごみ処理を人々の日常生活の一部にするためにスポーツ施設としてしまうという発想は、素晴らしいと思います。人々の心を動かすデザインのカモ大きいです。



<一部引用> TBSテレビ 2020年11月24日 https://news.tbs.co.jp/news_sp/sdgs/archive/20201124_01.html

ご報告

日本ユニセフ協会への寄付

2015年から古紙を持ち込むたびに10円をユニセフへ寄付し、世界の子ども達のために役立てる活動を始めています。前年度分として、1月7日へ日本ユニセフ協会に98,210円を寄付させて頂きました。たくさんの方にお越し頂きまして、誠にありがとうございました。



～前に進むための言葉 “一語一会”～

「進むのはわれわれであって、時ではない。」 - トルストイ -

当社への持ち込み1件あたり10円を寄付

ユニセフへの
累計寄付金額 **462,360円** ※

※2/28現在

みなさまの声をお聞かせ下さい

資源物リサイクルを通して、環境保全に貢献することを目指す当社では、サービス向上のためにも皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしています。

発行元： 奥富興産株式会社

編集責任者： 奥富 宏幸

埼玉県狭山市下広瀬782-2

TEL: 04-2952-3332

URL: <http://www.okutomi.co.jp>

過去のニュース
レターもチェック
できます！

編集後記

コロナ禍で社会に分断や破壊が起きています。余計な情報に振り回され、余計な問題を作り出していないでしょうか？働き方や会社のあり方が変わりゆく中で、拠り所となるものが必要になります。そのためにも、個人であれ組織であれ、冷静に状況を俯瞰する心と、目標に向けた行動が求められるように思います。静と動です。